

特殊機能を付記した衣料品に対する消費者の態度 第Ⅲ報 自覚疲労症状からみた特殊衣料品への関心と購入の実態

大阪市大生活科学 ○綿貫茂喜, 実践女大家政 飯塚幸子, 鳥取大教育 伊藤紀子, 日本女大家政 大野静枝, 大阪教育大教育 奥塚朝子, 福島大教育 田口秀子, 文化女大家政 田村照子, 奈良女大家政 登倉尋実, 国立公衆衛生院生理衛生 朽原裕, 奈良教育大教育 中谷和, 奈良女大家政 縁川知子

目的 前報に引き続き, 本報告では実態調査の中で得られた肩こり等の自覚疲労の現状を把握し, これが特殊衣料に対する関心度, あるいは購入動機に関係があるのか, さらに購入後の主観的な着用効果との関係も検討した。なお, これらの関係を地域, 年齢, 自己申告による体型差の観点からも検討してみた。

方法 自覚症状として質問した項目は肩こり, 冷え症, 腰痛, 足がむくむ, 疲れ易い等の12項目とし, 複数回の回答を許した。

結果 回答者2423名中, 約54%に相当する1310名は何らかの自覚疲労症状を訴えた。自覚症状の出現率は肩こり, 冷え症, 疲れ易いが高かった。出現率が最も高かった症状である肩こりを例にとると, 回答者の44%が肩こりを訴えた。肩こりを訴えた人の88%は磁気衣料を知っていたが, 磁気衣料に関心がある人は37%であり, 実際に購入した人は19%であった。次に磁気衣料に対する主観的着用効果をみると, 効果ありが約6%, 効果なしが3%, 効果があるのかわからないと答えた人が91%と多かった。なお, 肩こりを訴える人は30~50歳代に多かったが, 地域差はなかった。また体型と肩こりとの関係を見ると, 自分の体型を普通と思う人に肩こりが多く, やせていると思う人には少なかった。その他の症状についても検討し, 自覚疲労症状からみた特殊衣料品の実態を明らかにした。